

## 次期学習指導要領改訂に向けた審議（中間まとめ） に対する所見を5点述べます

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問  
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。



## 教育課程部会(第134回) 配付資料

### 1. 日時

令和7年7月9日(水曜日)13時00分～15時00分

### 2. 場所

WEB会議と対面による会議を組み合わせた方式

### 3. 配付資料

- 議事次第(PDF:141KB)
- 【資料1】教育課程企画特別部会における審議の状況について(PDF:3.6MB)**
- 【資料2-1】教員養成部会における審議の状況について(PDF:1.8MB)
- 【資料2-2】諮問を踏まえ議論が必要と考えられる事項と基本的な考え方(案)(社会の変化や学習指導要領の改訂について)
- 【資料2-3】諮問を踏まえ議論が必要と考えられる事項と基本的な考え方(案)(教師の質を維持・向上させるため)
- 【資料3】各学校段階や各教科等の改訂の方向性を議論する専門部会等の設置について(案)(PDF:452KB)
- 【参考資料1】給特法等改正法について(PDF:953KB)
- 【参考資料2】第13期中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会委員名簿(PDF:104KB)
- 【参考資料3】初等中等教育分科会教育課程部会運営規則(PDF:105KB)
- 【参考資料4】教育課程企画特別部会の設置について(PDF:68KB)



# 所感を5点

- ①主体的・対話的で深い学びを基礎として「個別最適な学び」を位置づける
- ②中核的な概念・方略を用いた授業づくり
- ③柔軟な教育課程編成としての「余白（裁量的な時間）」の創出
- ④探究的な学びと情報活用能力との一体的な充実
- ⑤初発の思考や行動

(イメージ)



Upcoming!  
「学習指導要領改訂に向けた  
審議に対する所感(上・下)」

## 所感を5点

- ①主体的・対話的で深い学びを基礎として「個別最適な学び」を位置づける
- ②中核的な概念・方略を用いた授業づくり
- ③柔軟な教育課程編成としての「余白（裁量的な時間）」の創出
- ④探究的な学びと情報活用能力との一体的な充実
- ⑤初発の思考や行動



## 具体的な方向性・論点

### 【デジタル学習基盤を前提にした改訂の方針】

- ① 中教審のデジタル学習基盤特別委員会の整理を基に、総則で以下のようなデジタル学習基盤の意義を示してはどうか。
  - ✓ 多様な子供たちにとっての包摂性を高めながら、教師にとって持続可能な形で主体的・対話的で深い学びを通じた資質・能力の育成に資する学習環境デザインを実現できる
  - ✓ 教師の指導のツールとしての側面に加え、学習者の学習ツールとしての側面を有しており、子供にとっての学びやすさの向上や合理的配慮の基盤として働き、多様な特性を持つ子供達が主体的に学ぶための基礎となる
  - ✓ デジタルカリキュラム等の二項対立に陥らず、デジタルを活用して一人一人の豊かな学びを充実させる視点が重要
- ② 例えばリアルタイム応答型のAIの発展など、デジタル学習基盤自体は今後も変化していくことが想定される。こうした情報技術の進展に伴う取扱は、必要に応じ別途ガイドラインや指導資料として示すことを学習指導要領や解説等に予め記載してはどうか。
- ③ 今後、各教科等において、資質・能力の記載や各教科等固有の学習過程を示していくに当たって、デジタル学習基盤が常に利用可能であることを念頭に検討してはどうか。

### 【「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学び」の整理】

- ① 「対話的な学び」と「協働的な学び」、「個に応じた」と「個別最適」など、類似した用語が並立することによる混乱が生じないように適切に整理してはどうか。
- ② 特に個別最適な学びについては、多様な子供たち一人一人に、「主体的・対話的で深い学び」による資質・能力の育成を図る旨を明確化しつつ、既に総則に記載がある「個に応じた指導」を発展させる形で整理してはどうか。
- ③ その際、上記のデジタル学習基盤の役割も踏まえつつ、教師主語の視点（※1）のみに留まらず、学習者主語の視点（※2）も含めた2つの視点をバランスよく踏まえた記載とすべきか。
  - （※1）教師が子供達一人一人に応じて指導方法・指導体制を工夫していくという視点
  - （※2）子供自らが自己の学習を主体的に調整することを促すことにより、資質・能力の育成に資するとともに、一人一人の多様性に応じていくという視点
- ④ また、孤立的な学びに陥ったり、集団の中で個が埋没してしまうことのいずれも避けながら、全ての子供の資質・能力の育成につながるよう、一斉・グループ・個別といった様々な形態を効果的に組み合わせ教育活動を組み立てていくことの重要性を示すことについてどのように考えるか。

「個に応じた指導」を発展させる形で整理してはどうか

一斉・グループ・個別といった様々な形態の効果的な組み合わせ

**No333**

文科省サポートマガジン『みるみる』が刊行！  
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」  
は全体－協働－個別のバランスの中で実現

そのように言ってくれれば  
実践は進みます！

溝上の解説：5つのポイント

動画チャンネル「溝上慎一の教育論」



## 所感を5点

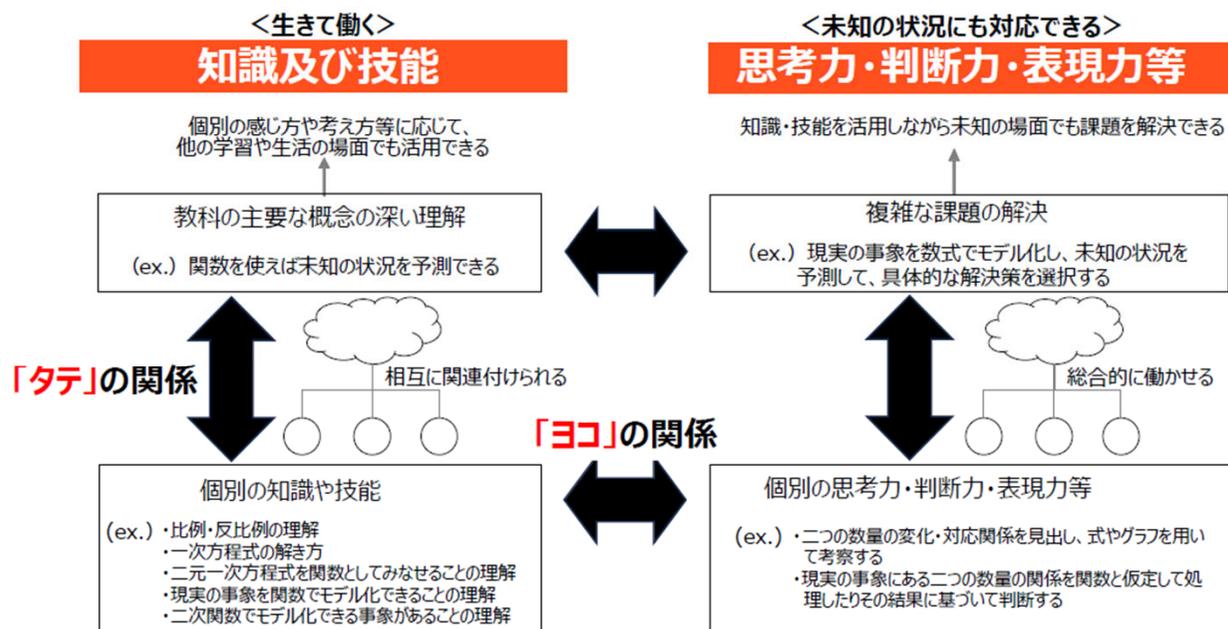
- ①主体的・対話的で深い学びを基礎として「個別最適な学び」を位置づける
- ②中核的な概念・方略を用いた授業づくり
- ③柔軟な教育課程編成としての「余白（裁量的な時間）」の創出
- ④探究的な学びと情報活用能力との一体的な充実
- ⑤初発の思考や行動

# 学習指導要領の一層の構造化

・深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領を実現する

・いわゆる「カリキュラム・オーバーロード」  
（教科書を網羅的に教えることなど）の問題解消

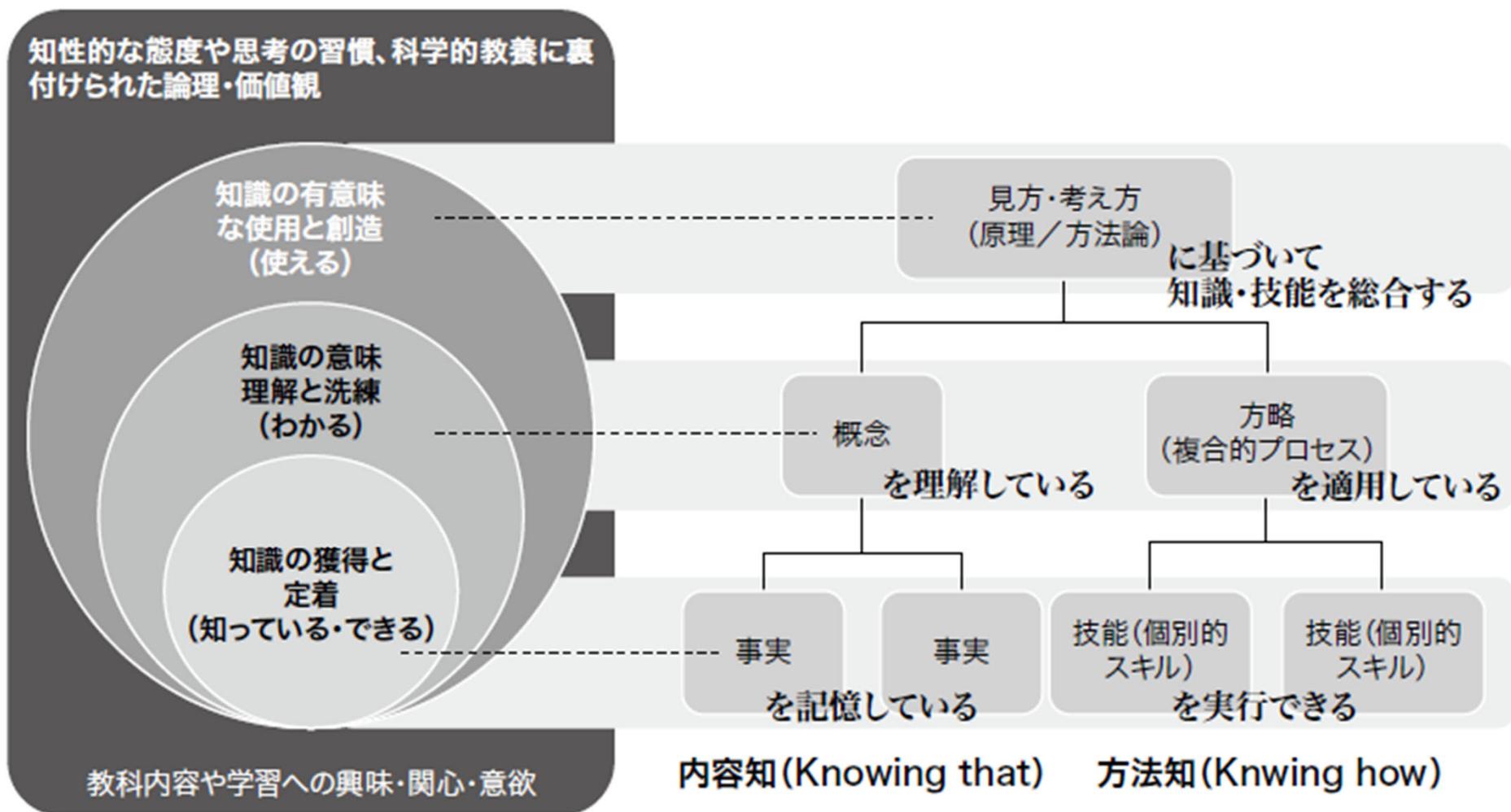
## 「タテ」の関係と「ヨコ」の関係のイメージ



※ (ex.) は例示のイメージ

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力・判断力・表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要。
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい。  
→こうした資質・能力の関係性やそれらの一体的育成への理解は、資質・能力を効果的に育成するためにも不可欠。

## 参考資料



(出典)石井英真「授業づくりの深め方ー『よい授業』をデザインするための5つのツボー」ミネルヴァ書房、2020年

## 所感を5点

- ①主体的・対話的で深い学びを基礎として「個別最適な学び」を位置づける
- ②中核的な概念・方略を用いた授業づくり
- ③柔軟な教育課程編成としての「余白（裁量的な時間）」の創出
- ④探究的な学びと情報活用能力との一体的な充実
- ⑤初発の思考や行動

論点

## 余白の創出を通じた教育の質の向上について (これまでの議論を踏まえた整理)

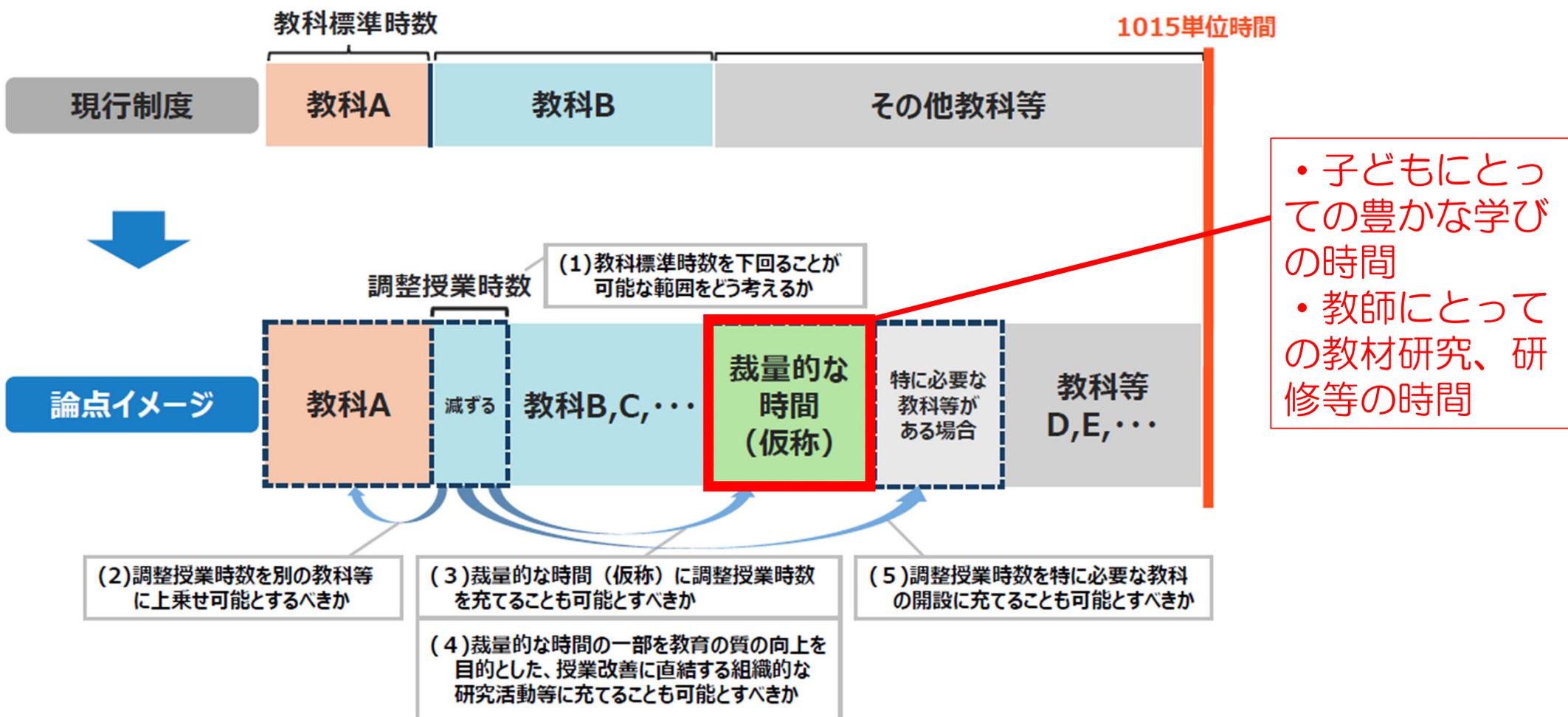
### 第9回：6月16日（月）15:30-18:00

余白の創出を通じた教育の質の向上について（これまでの議論を踏まえた整理）

〔・余白の創出を通じた教育の質の向上

# 柔軟な教育課程の論点イメージ

多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とするか否か。

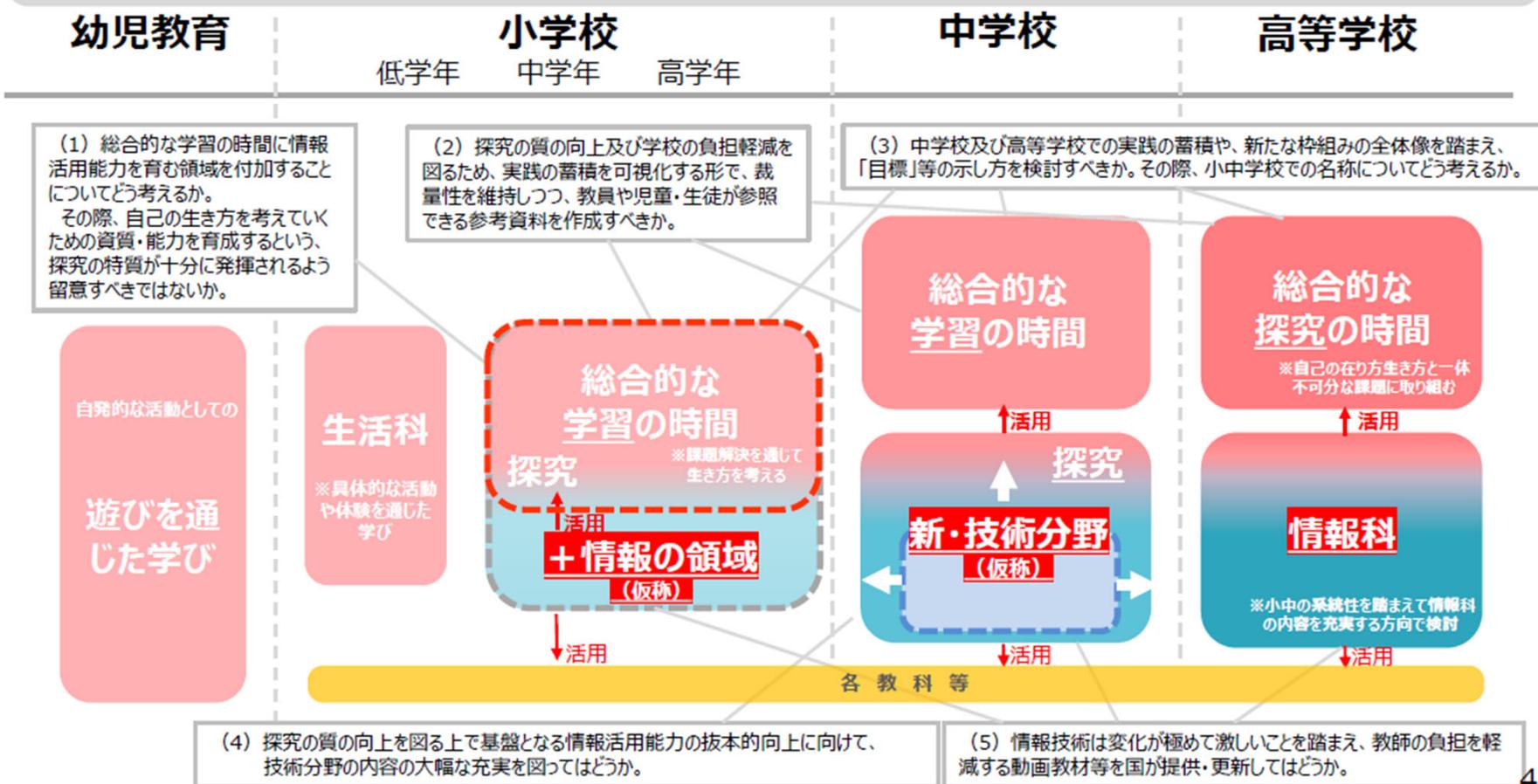


## 所感を5点

- ①主体的・対話的で深い学びを基礎として「個別最適な学び」を位置づける
- ②中核的な概念・方略を用いた授業づくり
- ③柔軟な教育課程編成としての「余白（裁量的な時間）」の創出
- ④探究的な学びと情報活用能力との一体的な充実
- ⑤初発の思考や行動

## 質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組み（②全体イメージ）

- 主体的に学び、自らの人生を舵取りする力の育成や、多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現を図るためには、一人ひとりが初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする中で、学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会につなげていく「**質の高い探究的な学び**」の実現が不可欠
- この実現に向け、情報活用能力を各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤と位置づけ、**探究・情報の双方の観点から大幅な改善を図る** (1) (4)とともに、**教育の質向上と教師の負担軽減を両立させる方策**(2)(3)(5)を検討してはどうか



## 所感を5点

- ①主体的・対話的で深い学びを基礎として「個別最適な学び」を位置づける
- ②中核的な概念・方略を用いた授業づくり
- ③柔軟な教育課程編成としての「余白（裁量的な時間）」の創出
- ④探究的な学びと情報活用能力との一体的な充実
- ⑤初発の思考や行動

# 学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ（素案）

## 【現行の整理】

### 小学校学習指導要領総則解説（抜粋）

児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。

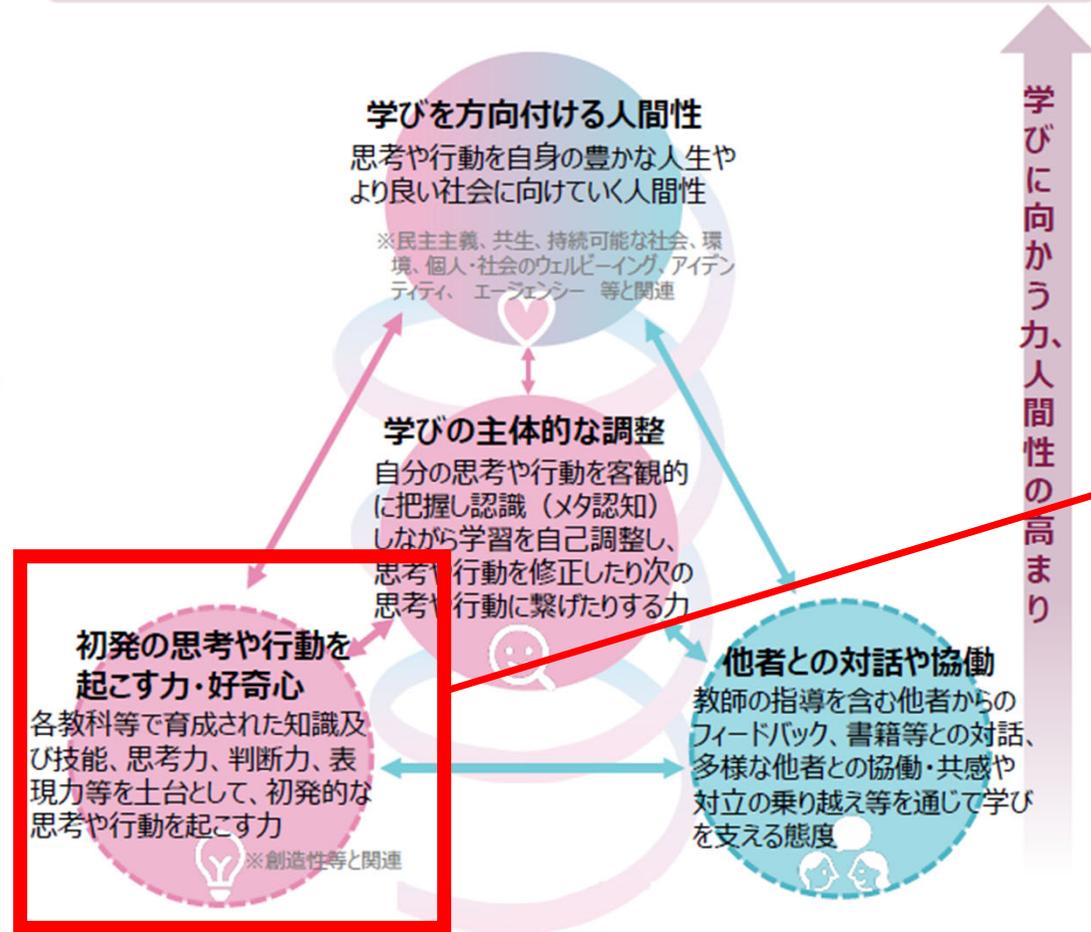
（中略）

児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を主体的に学習に取り組む態度も含めた学び客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。

また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

## 【今後の整理イメージ（素案）】

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む



**No335**

(中教審教育課程企画特別部会第4/6回) (2025年3月28日/4月25日開催)

ふり返り)

- ①「裁量的な時間」創設可の柔軟な教育課程
- ②「学びに向かう力、人間性等」の発展的提案

溝上慎一

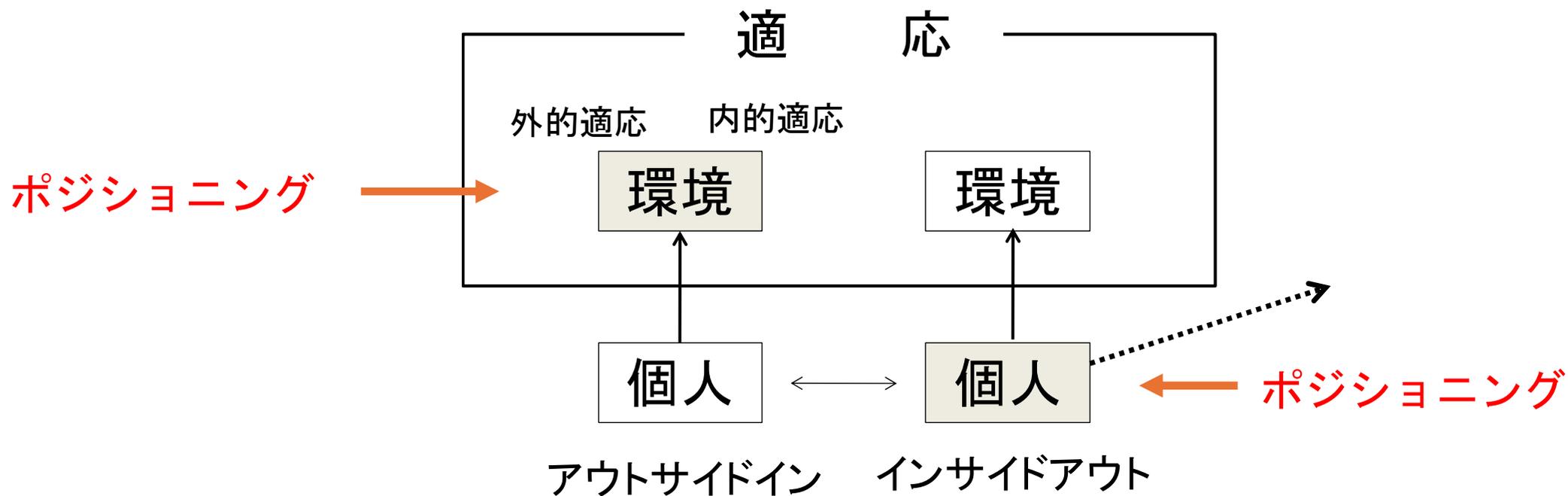
(桐蔭学園理事長、桐蔭横浜大学教授)

# アウトサイドインとインサイドアウト

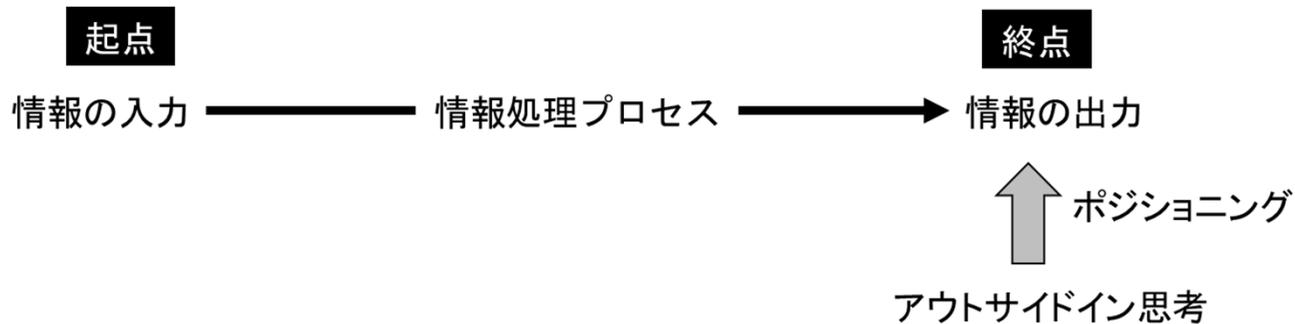
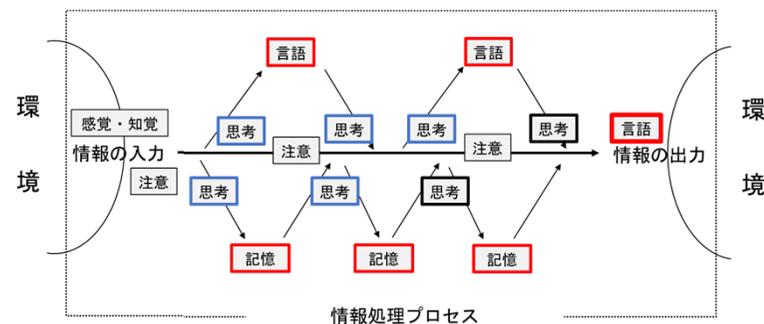
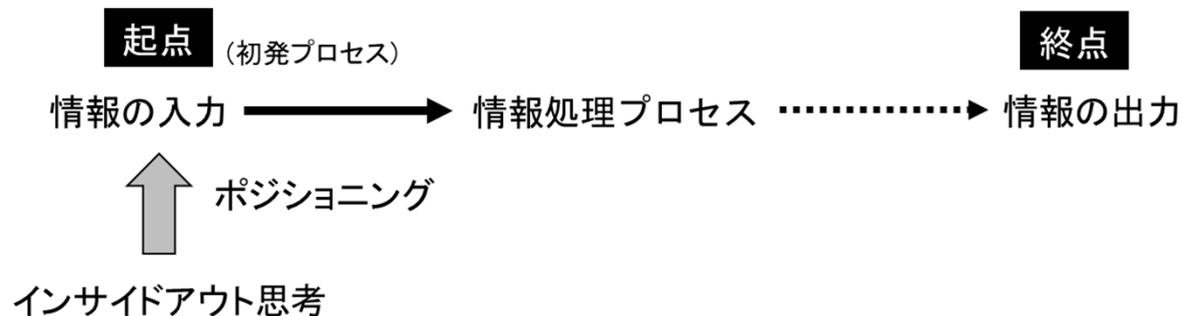
Outside-in

Inside-out

適応（アウトサイドイン）と個性化（インサイドアウト）の力学



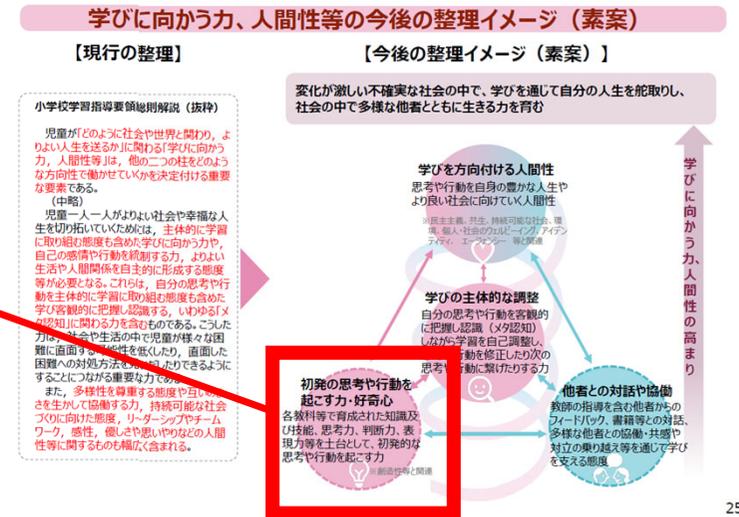
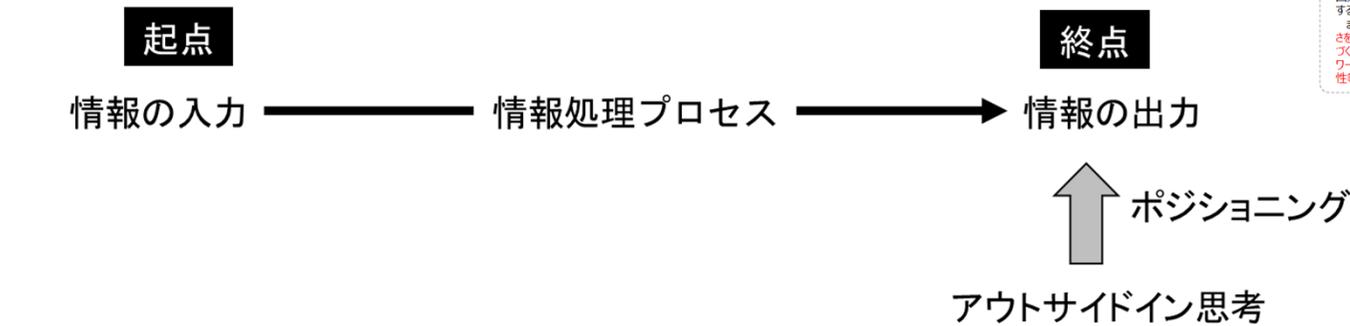
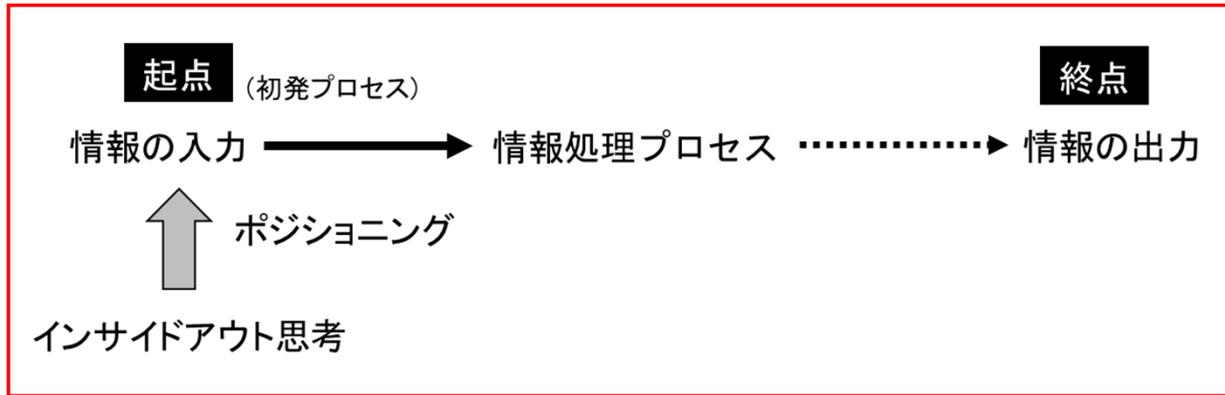
# アウトサイドイン思考とインサイドアウト思考



これまでの代表的な思考論をアウトサイドイン思考として位置づける

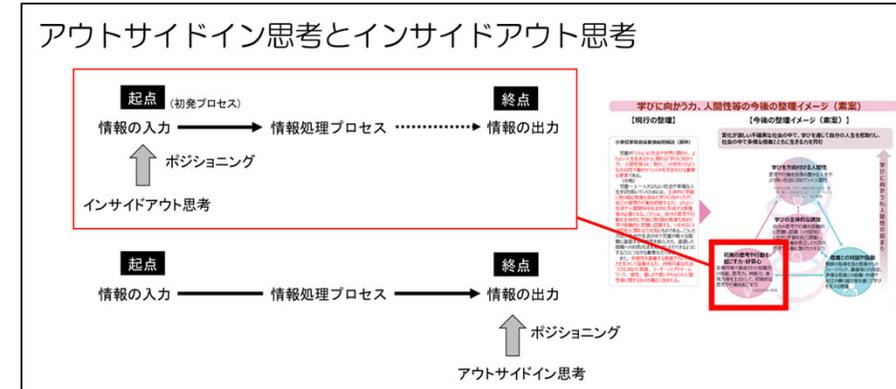
- 推論 (演繹・帰納・仮説推論)
- 問題解決    • 意思決定    • アナロジー
- 論理的思考    • 批判的思考

# アウトサイドイン思考とインサイドアウト思考



# インサイドアウト思考は「原初的な創造的思考」

- 多くの創造的思考の研究は、社会的に評価される、あるいは多くの人びとが発想しないユニークでオリジナルな思考に限定している。



- 「原初的な創造的思考」（＝インサイドアウト思考）は、天才や偉人のみが為せる思考と捉えるのではなく、一般の人びとが日常で普通に行う思考であると捉えたい。

## マズローの「創造性」

わたくしはまもなく、自分が他の大多数の人びとと同じように、創造性を作品によって考えていたこと、第二に、無意識のうちに、どの画家、どの詩人、どの作曲家が創造生活が続いているかを考えて、暗々裡に創造性を、人間の努力する特定のつきなみの領域のみにかぎっていたことに、気づいたのである。理論家、芸術家、科学者、発明家、作家は創造的になることができる、他のだれもなり得ない、というように、無意識のうちに、わたくしは、創造性が、ある職業に独占するものと考えていたのであった。

(中略) しかしこれらの予想は、多くのわたくしの被験者によって裏切られた。たとえば、無教育で貧しく、終日家事に追いまわされている母親である一婦人を例にとると、彼女はこれらの慣例的な意味での創造的なことは、なにもしていなかった。にもかかわらず、素晴らしい料理人であり、母親であり、妻であり、主婦なのである。わずかのお金で、その家はともかくもつねに小奇麗であった。彼女は完全なおかみさんなのである。彼女のつくる食事は御馳走である。彼女のリンネル、銀食器、ガラス食器、せともの、家具に対する好みは、間違いがない。彼女はすべてのこれらの領域で、独創的で、斬新で、器用で、思いもよらないもので、発明的であった。わたくしはまさに彼女を、創造的と呼ばざるを得なかったのである。

【出典】マズロー, A. H. (著) 上田吉一 (訳) (1979). 完全なる人間—魂のめざすもの— 誠信書房



溝上慎一 (2023). インサイドアウト思考—創造的思考から個性的な学習・ライフの構築へ— 東信堂



### 第I部 インサイドアウト思考論

第1章 思考とは—認知科学を視座として

第2章 二つの思考様式

—インサイドアウト思考とアウトサイドイン思考

第3章 インサイドアウト思考の身に付け方

第4章 学校教育でも育成されるインサイドアウト思考

第5章 個人的な思考が社会的な思考となるために

### 第II部 個人化・多様化した現代社会における個性的なライフの構築

第6章 個性的なライフを構築するためのインサイドアウト思考

第7章 知識・技能が社会構造的に継承されなくなった現代で求められるインサイドアウト思考

最後に—ウェルビーイング論へ

最後に

## 論点

## 豊かな学びに繋がる学習評価の在り方 ～過度な負担を生じさせない在り方との両立～

### 第10回：7月4日（金）9:30-12:30

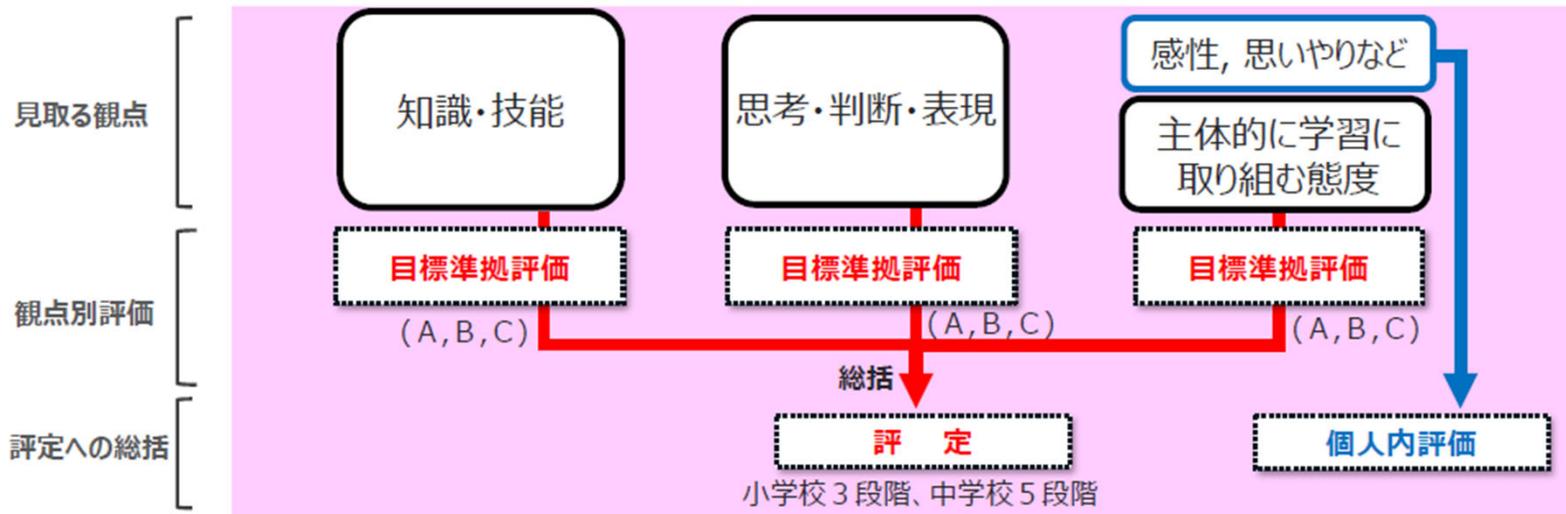
豊かな学びに繋がる学習評価の在り方について（過度な負担を生じさせない在り方との両立）

〔・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方、評価の頻度等

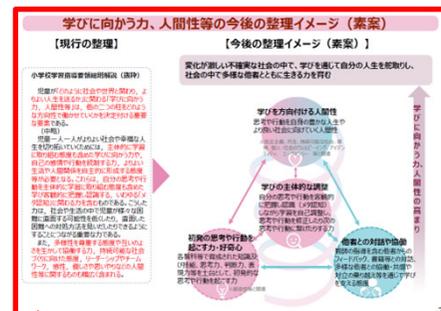
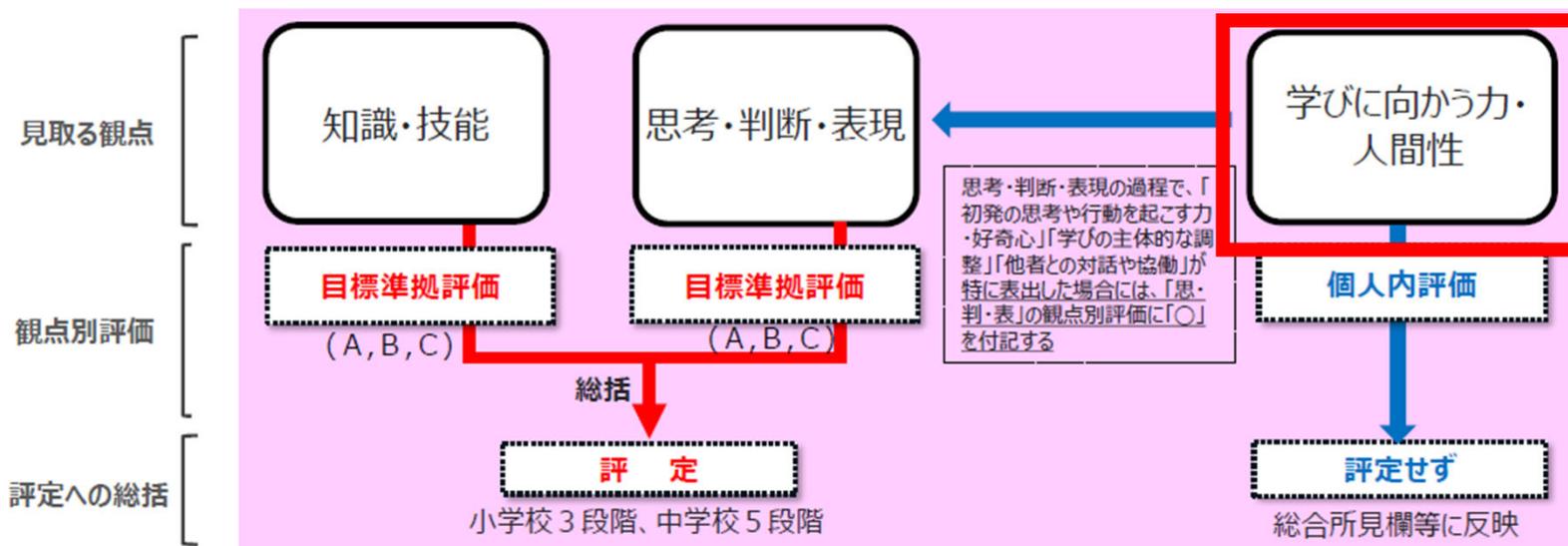
# 新たな観点別評価（イメージ）

補足イメージ②

旧



新



- ・ 目標準拠評価
- ・ 指導と評価の一体化

もう少し審議が進んでから所見を述べます

ご視聴有難うございました  
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。  
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

